

修士論文（要旨）

2020年1月

中・日母語場面に見られる20代女性・親しい友人間の「ほめ」について
—ドラマ会話の分析とアンケート調査を通して—

指導 宮副ウォン 裕子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

218J3007

包 玉てい

Master's Thesis(Abstract)
January 2020

Compliments Exchanged between Female Friends of Twenties of Chinese and
Japanese : Based on the Analysis of TV Drama Series, Questionnaire and Interviews

BAO YUTING

218J3007

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Yuko Miyazoe-Wong

目次

第1章	はじめに.....	1
1.1	背景.....	1
1.2	目的.....	2
第2章	先行研究.....	3
2.1	ほめの定義.....	3
2.2	日本語のほめに関する研究.....	4
2.3	中国語のほめに関する研究.....	5
2.4	日本語と他の言語のほめに関する研究.....	6
2.4.1	対照研究.....	6
2.4.2	接触場面でのほめについての研究.....	7
2.5	先行研究に残された課題.....	7
第3章	予備調査の調査概要と結果分析.....	9
3.1	調査概要.....	9
3.2	予備調査の対象者.....	9
3.2.1	予備調査 1：ドラマの会話例を分析.....	9
3.2.1	予備調査 2：アンケート調査.....	9
3.3	予備調査1の結果と分析.....	10
3.3.1	ほめ.....	10
3.3.2	ほめに対する返答.....	12
3.3.3	ほめの対象.....	14
3.4	予備調査2の結果と分析.....	16
3.5	予備調査の不足点と本調査への方向付け.....	20
第4章	本調査の調査概要と結果分析.....	21
4.1	本調査の対象者.....	21
4.1.1	本調査 1:ドラマの会話例を分析.....	21
4.1.2	本調査 2：アンケート調査.....	21
4.2	本調査1の結果と分析.....	23
4.2.1	ほめ.....	23
4.2.2	ほめに対する返答.....	24
4.2.3	ほめの対象.....	27
4.3	本調査2の結果と分析.....	29
4.3.1	アンケート調査.....	29
4.3.2	インタビュー調査.....	40
第5章	総合考察.....	43
5.1	相違点.....	43
5.2	類似点.....	46
5.3	日本語教育への示唆.....	46
第6章	まとめと今後の課題.....	50

謝辭
參考文獻
卷末資料

要旨

「留学生 30 万人計画」及び入管法が改正されたことで、日本における外国人の数は増加し、習慣や文化が異なる人とコミュニケーションする機会が今後ますます増えると予想される。人々は毎日の生活の中で、さまざまな言語行動を行っているが、その中で、「ほめ」という言語行動は、頻繁に使われている言語表現の一つである。適切なほめ表現を使うと、互いの心理的距離を近づけ、円滑な人間関係を築くことができるが、逆に、誤解や戸惑いを招いてしまう恐れもあり得るという指摘もある（小玉 1993 など）。異文化コミュニケーションが頻繁になっている現在において、お互いに何をほめの対象とし、どのようにほめるか、更に、ほめられた時にどう返事するかについて知らない、誤解や戸惑いなどを招きやすいのではないだろうか。

稿者は、来日直後に、日本人の友人から「日本語が上手ですね」としばしばほめられることがあった。しかし、その時、友人が本当に心から稿者の日本語能力をほめているのか疑わしく思っていた。また、中国の大学で日本語を学習した経験から、日本人はほめられた時に、否定的な返答をすべきだというステレオタイプの思い込みがあったので、その時の「日本語上手ですね」に対して、稿者は「いいえ、まだまだです」と一つ覚えの答えを繰り返すばかりだった。しかし、来日後しばらくすると、多様な日本人と接する中で、次第に「ほめ」への肯定的な返答も珍しくないということに気がついた。果たして「ほめ」に対して、どのように返答するのが適切なのだろうか。このほめとほめへの返答に対する疑問が「ほめ」の言語行動について研究しようと考えたきっかけである。

そこで、本研究では以下の三つの課題を設定した。RQ1.中日両言語の「ほめ」表現の特徴はどのようなものか。RQ2.中日母語話者の「ほめ」に対する意識はどのようなものか。RQ3.日本語教育現場において、どのような「ほめ」の指導が効果的であろうか。

調査は、上下・親疎・性差・年齢差という四つの変数をコントロールし、20代の女性同士や親しい友人間で交わされる「ほめ」に注目して行った。ドラマの会話、アンケート、インタビュー調査を通して、以下のような考察結果が得られた。1) ほめる際に、日本語では、親しい友人でも相手に配慮しながら「肯定的評価語のみ使用」あるいは緩和表現を使用する。一方、中国語では、自分の意見などを説明し、「肯定的評価語の使用+他の情報」を用いて、お互いに相手の領域に立ち入ることで、親しさを表す。また、親しみを感じさせ、ほめの内容をより確実にするために、「肯定的評価語+冗談」、「没想到+肯定的評価語」のような非難、嫌味にも聞こえるほめの表現も現れた。2) 返答する際に、日本語では素直に受け入れる傾向がある。しかし、ただそのまま素直に受け入れるだけではなく、「ありがとう」で返答することで、礼儀、嬉しい気持も同時に表している。一方、中国語では、直ぐに次の話題に移るといった返答表現が高頻度を占めている。また、交流の空気を調整し、照れを隠すために「冗談」、「自画自賛」、「当然」、「自慢」を使用することも好まれる。3) アンケート調査とインタビュー調査を通して、中日の言語習慣や文化が異なることによる、感謝や喜びを表わす返答と冗談っぽいほめ、返答の表現方法などに対する解釈と理解の相違が見られた。4) 中日ともに肯定的評価語を用いることでほめを行う。また、親しい人にほめられた時、中日ともに「否定」の返答が少ない。5) 中日ともに、「才能」、「遂行」、「行動」を重視する傾向が強く、「ほめ」の対象となりやすい。6) 親しい人と付き合う時には、

相手との関係を崩す心配も比較的少ないため、中日ともにほめの対象も多種多様に使われている。

最後に、学習者が実際に母語話者とコミュニケーションする時に誤解を招かないようにするためにはどのように指導すればいいかという日本語教育の視点から、本稿の調査結果に基づいて、「教室内」と「教室外」に分けて、改善案を提案した。

しかしながら、ドラマの会話は日常生活と比べてほめの言語行動のトピックが限られているというデメリットがある。この点を補うためには、現実生活からほめの会話を集めて調査を行う必要があると思われる。また、本稿では、限られた数のデータに見られた傾向を示したが、さらにデータを増やし、詳細な分析・検証が急務であろう。これらを今後の研究課題としたい。

参考文献

- 安善柱 (2012) 「接触場面に見られる韓日の「ほめ」行動—初対面会話におけるやり取りを通して—」『日本近代学研究』 39, pp.51-65
- 石塚美枝・守谷智美・宮副ウォン裕子(2008)「メディア・リテラシーを育てる『現代大衆文化』: 参加者の多様性・多文化理解を促す日本語授業実践」『桜美林言語教育論叢』 4, pp.15-24
- 市川真未 (2015) 「「ほめ」が成功、失敗する要因—「明示的ほめ」と「暗示的ほめ」の比較から—」『日本語コミュニケーション研究論集』 4, pp.83-90
- 市川真未 (2016) 「ほめが失敗する要因とほめストラテジーについて」『創価大学大学院紀要』 38, pp.165-183
- 犬飼英男 (2018) 「日本語教科書におけるほめと返答」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』 19, pp.43-52
- 袁帥 (2012) 「日中接触場面における「ほめ」—中国人日本語学習者の「ほめ」の言語行動と言語問題を中心に—」『外来性に関わる通時性と共時性接触場面の言語管理研究』 10, pp.107-122
- 王欣 (2017) 「中国語と日本語の「ほめ」の返答に関する対照研究」『地球社会統合科学研究』 7, pp.1-20
- 大野敬代 (2003) 「人間関係からみた「ほめ」とその工夫について—シナリオにおける「働きかけ表現」として—」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』 10-2, pp.337-346
- 大野敬代 (2005) 「「ほめ」の意図と目上への応答について—シナリオ談話における待遇コミュニケーションとしての調査から—」『社会言語科学』 2, pp.88-96
- 大野敬代 (2007) 「ほめ意図表現」の枠組みと機能」『早稲田大学日本語研究』 16, pp.109-120
- 大野敬代 (2009) 「日本語母語話者と学習者の目上への「ほめ」のあり方—アンケート調査の結果からみえる両者の配慮—」『早稲田日本語研究』 18, pp.60-71
- 柏木厚子 (2017) 「インタビュー番組におけるほめの返答の日米比較—非言語データも含めた発話分析—」『学苑』 919, pp.1-14
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (1996) 「待遇表現としてのほめ」『日本語学』 15-5, pp.13-22
- 川口義一 (2003) 「ドラマに登場する人物像—だれが、だれを、なぜほめるか—」『日本語学』 22, pp.54-65
- 甘能清・石 剛 (2016) 「語用論から見た「ほめ発話」効果: 「アイ・メッセージほめ」と「ユー・メッセージほめ」を中心に」『成蹊大学一般研究報告』 50, pp. 1-13
- 金庚芬 (2012) 『日本語と韓国語の「ほめ」に関する対照研究』 ひつじ書房
- 熊取谷哲夫 (1989) 「日本語における誉めの表現形式と談話」『言語習得及び異文化適応の理論的、実践的研究』 2, pp.97-108
- 小玉安恵 (1993) 「ほめ言葉にみる日米の社会文化的価値—外見のトピックを中心に—」『言語文化と日本語教育』 6, pp.22-35
- 小玉安恵 (1996) 「談話インタビューにおけるほめの機能 (1) —会話者の役割とほめの談話における位置という観点から—」『日本語学』 15, pp.59-67
- サーヤン コーサティアンウォン (2003) 「ほめ言葉に対する返答スタイルの日タイ比較—全体的傾向と上下関係による返答スタイルの違いについて—」『日本語・日本文化研

- 究』13, pp.171-181
- 清水崇文 (2012) 「語用論的転移の双方向性—日本人英語学習者とアメリカ人日本語学習者の対照研究—」『第二言語習得研究と言語教育』 pp.150-171
- 寺尾留美 (1996) 「ほめ言葉への返答スタイル」『日本語学』1 (55), pp.81-88.
- 陶琳 (2009) 「中国語における褒め言葉の返答に関する一考察」『言語文化論叢』13, pp.45-71
- 戸森優季 (2018) 「日中における親しさの表し方に関する考察—ほめの返答に着目して—」『さいたま言語研究』2, pp.1-13
- 葉山大地・櫻井茂男(2008) 「友人に対する冗談関係の認知が冗談行動へ及ぼす影響」『心理学研究』79 (1) , pp.18-26
- 林伸一 (2002) 「「ほめる・ほめられる」教育—ほめる対象, 方向, 範囲, 内容, 動機, 効果などの分類試案」『教育学研究紀要』48 (2), pp.374-379
- 古川由里子 (2001) 「言語機能導入への一試案—ほめを中心に—」『日本語・日本文化研究』(11), pp.57-72
- 古川由里子 (2002) 「「ほめ」の種類—受け手に直接関係しない「ほめ」を中心に—」『日本語・日本文化研究』12, pp.41-52
- 古川由里子 (2003) 「書き言葉データにおける<対者ほめ>の特徴—対人関係から見た「ほめ」の分析—」『日本語教育』117, pp.33-42
- 丸山明代(1996) 「男と女とほめ—大学キャンパスにおけるほめ行動の社会言語学的分析—」『日本語学』4, pp.68-79
- 山口和代 (2015) 「留学生の「ほめ」にみられる社会・文化的価値観の影響」『アカデミア』10, pp.137-150
- 山路奈保子 (2004) 「日本語の談話における「ほめ」の機能」『比較社会文化研究』15, pp.109-118
- 楊一林 (2012) 「中国人話者の目上への「ほめ」行動について—中国人大学生を調査対象として—」『金沢大学経済学類社会言語学演習論文集』7, pp.39-52
- 凌宇 (2015) 「接触場面における中国人日本語学習者のほめと返答スタイル—日本語母語話者との比較を通して—」『言語文化と日本語教育』48/49 (合併号), pp.106-109
- 权立宏 (2004) 「汉语中男女在称赞语和称赞语回应使用上的差异分析」『现代外语』第1期 pp.62-69
- 李爱菊 (2012) 「现代汉语赞扬语及其应答语研究」哈尔滨师范大学硕士学位论文
- 法務省 2018 : http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00081.html
- 文部科学省 2019 : http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm